

実行委員の紹介

実行委員長：谷畑誠司（量子科学技術研究開発機構）

JRC2026 へようこそ。

第 82 回日本放射線技術学会総会学術大会で実行委員長を務めます、量子科学技術研究開発機構の谷畑誠司です。

診療の質と安全を守りつつ、限られた人員・時間で最適な検査・治療を提供する現場では、線量管理、医療安全、機器管理、データ活用、医療 DX やサイバーセキュリティへの備えなど、放射線部門の責務は年々広がっています。

さらに生成系 AI/LLM の進展は、技術の「使いこなす力」と同時に「評価する目」「責任ある運用」をこれまで以上に求めています。

本大会では、多職種・多領域が交差し、“Radiology Connectome”としてつながる議論の場を大切にしながら、現場で“明日から使える”学びを持ち帰れる実践型プログラムを充実させ、会場での熱い討論、Web での学び直し、そして“明日から使える”ヒント、参加者それぞれのペースで楽しみながら学びを深められる場を準備しました。

広がる課題を多職種・多領域で共有し、臨床と技術を“同じテーブル”で語り合ひましょう。現場の悩みを持ち寄り、解決の糸口を持ち帰る、新たな出会いと連携のきっかけになることを願っています。

実行委員会一同、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



実行委員：北村 一司（天理よろづ相談所病院）

第 82 回日本放射線技術学会総会学術大会の実行委員を務めます、天理よろづ相談所病院の北村一司です。

今大会のテーマ「Radiology Connectome」には、放射線医学を中心に、臨床現場、スタッフ、技術、そして世界へと広がる「つながり」を深めたいという願いが込められています。私たち実行委員会では、この理念のもと、特に「臨床現場と研究のつながり」を重視して準備を進めてまいりました。

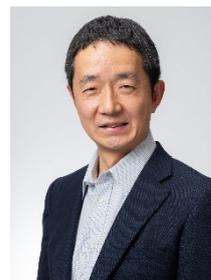
その象徴とも言えるのが、林大会長肝いりの企画である「研究の愉しみを臨床に——多職種で紡ぐ知と成長」です。大学などの研究機関に限らず、臨床の最前線にいるからこそ気づく「なぜ？」という疑問があります。本企画では、そうした日々の疑問をどのように研究へと昇華させ、再び臨床現場へ還元していくか、そのプロセスと「愉しみ」に焦点を当てています。多職種が連携し、互いに知を紡ぎ出しながら成長していく姿は、多くの参加者の皆様にとって共感と刺激を得られる場になるはずです。

また、本大会は木曜日午前から開始し、日曜日の午前中で閉幕するという新しい日程で開催されます。これは参加される皆様の働き方改革にも配慮した、JRC2026 ならではの新しい試みです。横浜の地で、皆様と新たな知見を共有し、交流を深められることを心より楽しみにしております。



実行委員：松原 孝祐（金沢大学）

第 82 回総会学術大会の実行委員を拝命いたしました、金沢大学の松原孝祐と申します。本大会のテーマ「Radiology Connectome」は、放射線医学・技術を取り巻く多様な人や分野、知識がつながり合うことで、新たな発想や価値が生まれる姿を表しています。私たちにとって当たり前と思っている知識や経験も、異なる立場や専門の参加者にとっては新鮮な視点や気づきとなるかもしれません。だからこそ、日々の臨床・研究・教育の中で得られたことを持ち寄り、分かち合うこと自体に大きな意義があると考えています。本大会が新たな出会いや対話を生み、それぞれの実践や研究の一步先へとつながる機会となれば幸いです。本大会では皆様に有意義な時間を過ごしていただけるよう、さまざまな企画を用意いたしました。皆様の積極的な参加と活発な交流を心より楽しみにしております。



実行委員：関 将志（北里大学病院）

このたび、第 82 回日本放射線技術学会総会学術大会の実行委員を拝命いたしました、北里大学病院の関と申します。

今大会のテーマである「Radiology Connectome」は、大会ポスターにも示されているように、放射線医学を核として、臨床現場、医療スタッフ、科学技術、そして世界へと広がる多様な「つながり」をイメージしています。その中でも、林大会長、谷畑実行委員長からは特に「臨床」というキーワードをいただき、実行委員一同、力を合わせて準備を進めてまいりました。

ランチタイムレクチャーでは、一般撮影、CT、MRI、放射線治療など、多岐にわたるモダリティにおいて、実際の臨床現場でご活躍されている先生を講師にお迎えしています。聴講いただければ、日々の臨床にすぐに還元できる学びが得られるものと確信しております。この機会に、「臨床」と「研究」の新たな「つながり」をぜひご体感いただければ幸いです。

本大会が、皆さまにとって多くの「つながり」が生まれる場となることを心より願っております。横浜の地で、皆さまとお会いできることを楽しみにしています。



実行委員：山品博子（福島県立医科大学）

第 82 回日本放射線技術学会総会学術大会の実行委員を務めます、福島県立医科大学の山品博子です。

今大会で私は、放射線技術を軸とした「知の広がり」を実感していただけるよう、路線の異なる 3 つの企画を担当いたしました。

16 日（木）のランチタイムレクチャーでは、福島の歩みを次世代へ繋ぐ「フクシマたんばぽプロジェクト」を。18 日（土）には、AI 時代に対応した「文献検索のスマートサーチ」をテーマとしたランチタイムレクチャーと、ラオスから 2 名の放射線科医を招聘し、国際協力の展望を伺う特別講演をそれぞれ開催いたします。

震災の教訓、最新の検索技術、そしてアジアとの連携。多岐にわたるテーマを用意しましたが、これらが皆様の中で新たな「Connectome（つながり）」を生むきっかけとなれば幸いです。JRC2026 ならではの新しい日程のもと、横浜の地で皆様とお会いできることを、実行委員一同心より楽しみにしております。



当日実行委員（ICRPT 担当）：佐藤 英介（順天堂大学）

JSRT と JSMP が共催する International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT) のプログラム委員長を務めます佐藤英介（順天堂大学）です。ICRPT は今回で第 5 回の開催となります。世界各国から研究者が集い、最新の研究成果を英語で発表し、活発に討論する国際セッションです。多様な価値観と専門性が交差することで、新たな知見や国際的な連携が生まれることを期待しております。本セッションが、参加者の皆様にとって国際的視野を広げ、今後の研究の発展につながる有意義な機会となれば幸いです。皆様の積極的なご参加と活発な議論を心よりお待ちしております。



当日実行委員（事務局・記録担当）：八幡 優希（東京 D タワーホスピタル）

第 82 回日本放射線技術学会総会学術大会で当日実行委員を務めさせていただきます、東京 D タワーホスピタルの八幡優希と申します。今回の大会テーマ「Radiology Connectome」にふさわしく、互いの研究分野や職種等が繋がり、知見を交換し合い、相乗的に発展していけるような学会となるよう尽力いたします。



当日実行委員（事務局・記録担当）：東海 芽生（東京女子医科大学病院）

第 82 回日本放射線技術学会総会学術大会の当日実行委員を務めます、東京女子医科大学病院の東海芽生です。

はじめての実行委員でいたらぬ点もあるかと存じますが、臨床現場の「なぜ？」を研究へ昇華し、その成果を再び現場へ還元できる大会となるよう、また皆様の探求が現場を支える一歩となるよう、実行委員として尽力いたします。

